

【海外統計事情】

## 国際所得国富学会（IARIW）第29回大会参加報告

光藤 昇\*

2006年8月20日から26日にかけて、国際所得国富学会の第29回大会がフィンランドのヨエンスー市（Joensuu）のJoensuu Universityで開催された。全体の参加者は約250名で、日本からの参加者は、伊代田光彦氏（桃山学院大学）、上領英之氏（広島修道大学）、作間逸雄氏（専修大学）、櫻本健氏（内閣府経済社会研究所国民経済計算部企画調査課）、辻村和佑氏（慶応大学）、溝下雅子氏（慶応大学）に私の7人であった。

今回の大会は、報告論文数が125と多く、最後に掲載したプログラム骨子から分かるように、これまでになかった4分科会同時進行の形がとられ、かつ、新たにポスターセッションが開催された。

今回私が参加したセッションは、第1、第2C、第3、第4A、第5、第6A、第7Aセッションであるが、以下において、特に印象に残ったセッションについてのみ簡単に触れておきたい。

第1セッションで印象に残ったのは、LWS（Luxemburg Wealth Study）の第一次調査結果報告である。LIS（Luxemburg Income Study）の存在は有名であるが、現在、所得分布のみならず富の分布の国際比較プロジェクトも進行中のようである。この学会の慣行では、開催国の国民経済計算担当部局が主導して第一セッションのテーマが決められてきたように思う。従って、これまでは、ほとんどがSNA

に関する諸問題が取り上げられてきたように思うが、今回は、めずらしく、所得・富の分布に関する話題が取り上げられた。司会のEva Hamunenは、LIS（Luxemburg Income Study）の関係者のようであり、フィンランドの国民経済計算担当部局の指導的な地位にある人が所得分布の研究を積極的に行っているということのようだ。世界的に所得・富の分布の不平等が注目され、話題になってきているということであろう。

第2Cセッションで印象に残ったのは、Bent Thage and Thijs ten Raaによる報告である。近年、国民経済計算の質が問題にされてきているが、質の向上のためには、コモ法を利用し、SUT（Supply and Use Table）を充実させることが必要である。ところが、93SNAは、この点を配慮した構成、記述になっておらず、各国の国民経済計算担当部局に混乱をもたらしているというのが彼らの主張である。先進国においても純粋なアクティビティー・ベースの事業所分類によるSUTが作成されている例は少ないようであり、この点への注意を喚起したセッションであったといえよう。なお、この点に関して、日本はかなりきっちりと対応しており、評価も高いようであった。

第6A及び第7Aセッションは、2008年に予定されている国連のSNA改定に関する討論のセッションであった。改定検討項目及びそれらに関する議論のスケジュール、改定に関する諸委員会の議論状況については、国連のホームページに掲載されており、この学会に参加するまでは、かなり議論が煮詰まってい

\* 松山大学経済学部

〒790-8578 松山市文京町4-2（大学）

るのではないかと思っていた。しかし、このセッションで、改訂の議論に直接タッチしていない有力な専門家の間でかなり異論があることが明らかになった。例えば、93SNA改訂当時の中心メンバーであったバノリが、かなり多数の項目に関して批判を展開したのは印象的だった。改定内容が最終的にどのような内容になるか、また、どのようなスケジュールで行われるのかについては、不確定な要素がかなりあるような感じがした。

今回初めて設けられたポスター・セッションでは、Harry X. Wuの「The Chinese GDP Growth Rate Puzzle: How Fast The Chinese Economy Growth?」が印象に残った。2006年1月、中国政府は、経済センサスに基づいて、1992年から2004年の平均実質成長率を9.4%から9.9%に修正し、1993年以降各年の成長率も修正した。Wuの論文は、中国政府当局が推計変更に使った手法を推測し、かつ、推測した手法に基づいて再計算を行った結果と政府発表数字を比較したものである。そして、その結果から、政府発表は人為的に一部の数値を操作したものだとは結論づけている。経済統計学会誌『統計学』において、中国の1998年GDPの成長率をめぐる論争を取り上げたことがあるが、最近、IARIWの学会誌「Review of Income and Wealth」で、Angus Maddisonによる中国GDP成長率の推計結果に関してCarsten Holzとの間で論争が行われている。中国のGDP成長率の正確な推定は、世界的に注目されているトピックスになって

いるようであり、私も興味がわいてきた。

次に、22日夜に行われた全体総会の中で、今後の学会の新しい運営体制、経営状況などが発表されたので報告しておきたい。新しいチェアマンには、Stephan Jenkins氏（Essex大学、イギリス、1956年生）が就任した。IARIWは近年、経営的に苦しい状況であったが、学会誌「Review of Income and Wealth」をBlackwellが責任を持って発行するという契約が成立したことなどにより、資金的な余裕が出てきているようだ。次回の大会は2008年8月24日-30日にスロベニアのBledで開催される。また、2010年の大会は、スイスのチューリヒ近郊のSt-Gallenで開催されることになった。なお、2007年9月に次のようなテーマの特別総会が北京で開催される。“Experiences and Challenges in Measuring National Income and Wealth in Transition Economies”。ちなみに、今回のIARIW29回大会の詳しいプログラム、報告論文をIARIWサイトからダウンロードできるので、関心がある方は

<http://www.iariw.org/>

を利用されたい。

最後に、経済統計学会50回大会では、所得格差問題が議論されたが、IARIWにおいても所得分布、資産分布の問題を取り上げた議論が多かった。研究対象に関しては、両者に共通する部分が多く、参考になることが多いので、経済統計学会のより多くの会員がIARIWに参加することを薦めたい。

#### IARIW29大会最終プログラムの骨子（セッションの表題のみ掲載）

\* MONDAY, AUGUST 21,

1 : Issues in the Measurement of Wealth

2A : Cross-Border Trade and Foreign Direct Investment

2B : Improving Estimates from Survey Data

2C : New Developments in the Compilation of Supply and Use Tables and Input-Output Tables

2D : Aging, Intergenerational Transfers, and the Well-being of the Elderly

- \* TUESDAY, AUGUST 22,
  - 3 : Measurement of Government Output
  - 4A : Productivity Measurement: Methodology and International Comparisons
  - 4B : Child Poverty
  - 4C : Improving Estimates from Survey Data
- RICHARD AND NANCY RUGGLES MEMORIAL LECTURE
- \* WEDNESDAY, AUGUST 23 : FULL DAY EXCURSION
- \* THURSDAY, AUGUST 24,
  - 5 : Ageing and Demographic Change
  - 6A : SNA (1)
  - 6B : Self-Employment and Inequality
  - 6C : Productivity II
  - 6D : Earnings Inequality and Well-Being
- POSTER PAPER SESSION
- \* FRIDAY, AUGUST 25,
  - 7A : SNA (2)
  - 7B : Measurement of Segregation: New Directions and Results
  - 7C : Measurement Issues in Macroeconomics
  - 7D : Poverty, Social Exclusion and Economic Well-Being: Developed and Developing Countries
  - 8A : SNA (3)-CANCELLED
  - 8B : Household Wealth: Distribution and Measurement Issues
  - 8C : Issues in Measuring Inequality and Poverty
  - 8D : Poverty and the Well-Being of Children